

連載



1月29日に米投資信託協会 (ICI) が2025年12月の投信市場データを公表し、速報値ベースではありますが、25年の米投信資金動向が出そろいました。25年の米国株式相場は、NYダウ平均株価が13.0%の上昇、S&P500指数が16.4%、ナスダック総合指数は20.4%といずれも二桁の上昇となっており、23年、24年に続いて米投信市場にとって良好な投資環境が継続しました。今回の連載では、25年の米ミューチュアルファンドや上場投資信託 (ETF) の資金動向から米投資家のスタンスを確認していきたいと思います (図表1参照)。

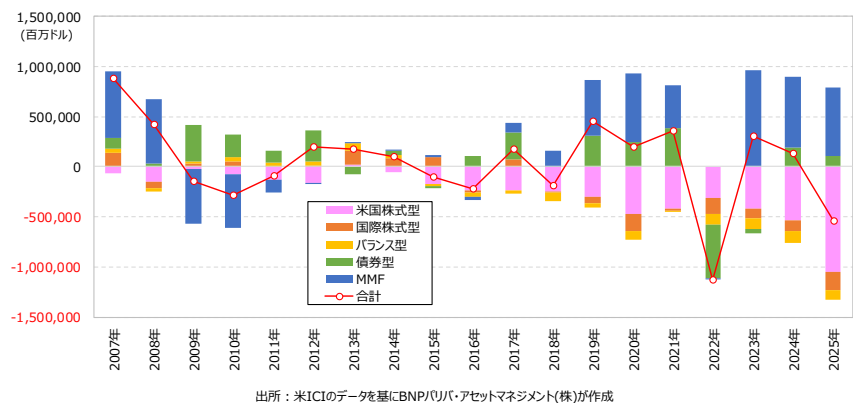
25年末時点のミューチュアルファンドの残高は前年末比+9.9%の31.4兆ドルと3年連続で増加し、過去最高残高を更新しています。ただし、この残高増加は株式相場の上昇による部分が大きく、資金フローではミューチュアルファンド全体で▲5,400億ドルと3年ぶりのマイナスに転じました。以下のグラフに示した分類別でみると、MMFが+6,800億ドル、次いで債券型が+1,100億ドルの資金流入となり、24年に続いてMMFが最大の資金流入を記録しました。一方で、米国株式型と国際株式型、バランス型は数年にわたってマイナスが継続しています。ミューチュアルファンド残高の4割程度を占める米国株式型については、年間の資金流出額が初めて1兆ドルを超えるなど、米株高が進む中で利益確定売りが強まっていたようです。

株式ファンドを中心にミューチュアルファンドからの資金流出が続く一方で、それを補って

いるのがETFです。25年末時点の米ETFの残高を見ると、前年末比+28.2%の13.3兆ドルと増加ピッチは衰えていません。ETFの資金流入 (ETFの場合は、Net Issuanceのデータを使用) を見ると、25年に+1.5兆ドルの資金流入とミューチュアルファンドと対照的な動きとなっています。図表2は、米ETFの分類別の資金流入の推移を示したものです。25年の資金流入額1.5兆ドルのうち、およそ9,600億ドルは株式型に向かっていますが、債券型がその次に大きく4,400億ドルとなっています。日本の投資信託市場、日本のETF市場では株式型への資金流入が圧倒的に大きいですが、米国ではミューチュアルファンドでもETFでも債券型の存在感が高まっている状況です。世界経済の不透明感が増す中で、米国債利回りや米短期金利がある程度高止まった環境が続いており、25年に米投資家が債券やMMFに資金を振り向ける動きを強めたことは、改めて認識しておく必要があります。

(執筆: BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表1 米ミューチュアルファンドの分類別の資金流入推移 (年次、2007年～2025年)



図表2 米ETFの分類別の資金流入推移 (年次、2007年～2025年)

